

介護保険料

「介護保険料が高い。しかも少ない年金から天引き」「制度が改悪され、ひどい負担増。保険料だけ取られてサービスが利用できない」など切実な声。

9月定例会の審議で、介護保険会計の今年度末の基金残高（剰余金）は7億6千万円となる見込みがわかりました。本来、3年の計画期間の末までに、剰余金は全額を使いきりサービス給付に充てる仕組みです。こんなに多くの剰余金が残ったのは、サービスが希望通り利用できないのに介護保険料が

剰余金7億6千万円使い引き下げてください



高すぎた（取り過ぎた）からです。

今、2024年度以降3年間の保険料の額を幾らにするのか計画の策定中です。物価高騰で厳しい高齢者の生活を支えるため、7億円余の剰余金は全額取り崩し、次期保険料の引き下げにつかわせましょう。

ふれあい会館のお風呂まで 廃止しないで

江南市は老人福祉センターのお風呂を建物全体の建て替えを機に廃止し、ついでに布袋ふれあい会館のお風呂まで今年度末で廃止しようとしています。ふれあい会館には建て替え計画などなく、お風呂を廃止する理由は何もありません。

近隣市町はどこでも、高齢者の憩いの場として無料又は低料金のお風呂を大切に維持しています。江南市はお風呂の廃止を言いながら、行き場を無くす方々への代替策をまだ何も示しません。理不尽な布袋ふれあい会館のお風呂の廃止を止めさせましょう。



お風呂は安心・交流の場です。一人暮らしの高齢者にとって、公共の場での入浴は人の目が安心です。

老朽化？を理由に布袋ふれあい会館のお風呂まで無くすのは、あまりにも高齢者に冷たい。傷んだら修繕すればよいだけです。

自衛隊に18歳の名簿を提供しないで



敵基地攻撃能力の保有など自衛隊の任務の危険度が高まり、自衛官への応募が減少しています。このため国や防衛省から自治体への協力要請が強化されています。

これを受け江南市は今年から、18歳の市民を抽出して名簿化し、本人に断りもなく自衛隊への提供を始めました。個人情報勝手に自衛隊に提供してよい明確な法的根拠はありません。

自衛隊への提供を望まない市民は、除外申請をすれば提供されずに済みます。ところが市は今年、この制度を全く知らせませんでした。

日本共産党議員団は9月定例会でこの問題を取り上げ、国に言われるままに個人情報を勝手に提供するのは止めよと追及しました。

公共交通充実へ大きな一歩

乗合型オンデマンド交通の検討 いこまいCARの見直し



江南市の公共交通の在り方を検討し、今後の対応方針を定める地域公共交通会議が8月に開催され、新たに上記の方針が打ち出されました。大きな一歩です。

来年度から、タクシー運転手の労働時間等の基準が改正され、いこまいCARの運行はさらにひっ迫し深刻になることが予想されます。市当局からは「乗合型オンデマンド交通について調査し交通事業者と協議の上、新たな公共

交通として導入に向け検討する。路線バス空白地域での運行を検討する。

いこまいCARについて、制限は考えていないが、市民にとって使いやすいよう見直していく」との考えが述べられました。

プロジェクトチームづくり、実現スケジュールを示せ

乗合型オンデマンド交通を走らせるためには、市役所内にプロジェクトチームを作り集中的に取り組むことが必要です。また、交通空白地域に職員が出向き、住民から要望を聞き取り、実証運行までのスケジュールを立てる必要があります。市にその構えがあるのか質しました。

市当局からは「実証運行までには様々な手続きが必要なので、内容を整理し、スケジュール案ができれば議会に示す」との答弁がありました。



便利なバスと福祉タクシーで 市民の足の確保を

初乗り料金のみ助成で使い勝手の悪い福祉タクシーと、いこまいCARを一本化し、低額・定料金の「福祉タクシー」にしてはどうかと岡谷市の例を紹介しました。

岡谷市の福祉タクシーは80歳以上と障害者が対象で市内どこでも300円で行けます。その上、誰もが利用できるコミュニティバス8路線も走らせています。

バスと福祉タクシーへの支出は、財政規模あたりで比較すると江南市の約1.5倍。江南市は市民の足の確保に、もっと思い切って財源を使うべきと要求しました。

ボランティアで 無料買い物バス

交通空白地域の山尻町では、いつまでも江南市の動きを待ってはもらえないと、ボランティアで無料買い物バスを走らせる活動が始まっています。

宮後中区の買い物バスの経験に学んで、社会福祉協議会のバスを借り月2回、スーパーまで乗り合わせて出かける計画とのこと。